

## ■ 学会賞技術部門受賞

## 第4回学会賞（技術部門）受賞にあたって

Receiving the 4th Japanese Society of Nuclear Cardiology (JSNC) Award

須田 匡也

Masaya Suda, PhD

日本医科大学 健診医療センター

Clinical Imaging Center for Healthcare, Nippon Medical School

第25回日本心臓核医学会総会・学術大会が2015年6月26～27日東京（京橋）で開催され、第4回学会賞技術部門を受賞することができた。この賞は心臓核医学技術に関する領域での業績を評価し、過去の受賞者はいずれも偉大な先生たちで、私自身にとって大変光栄なことであった。また同時に、今後は今回の受賞に恥じない研究や後進の診療放射線技師へ指導を行う責任も改めて感じるものとなった。

学会賞受賞公演では、time-of-flight (TOF) 技術を中心臓検査に利用した研究の発表を行った。 $^{13}\text{N}$  アンモニアによる心筋血流量および冠血流予備能解析値の再現性を TOF PET と従来型 PET で比較すると、ファントム実験より、解析に影響する部分容積効果とノイズ特性が TOF PET で優れ、臨床例において算出値の再現性が向上し、TOF PET が有用であった。特に心尖部は筋肉が薄い部分で心拍動や呼吸の影響を大きく受けていると言われており、また RV の VOI 設定

が困難な症例では隣接するセグメント解析値のバラツキが大きいとされていたが、TOF PET ではそれらの影響が抑えられ再現性が向上した。部分容積効果と SNR の問題は  $^{82}\text{Rb}$  や  $^{15}\text{O}$  などのほかの核種においても同様であり、再現性の向上に貢献できると考えられた。また、非侵襲的にアテローム性プラーク活動の炎症評価を目的とし、TOF PET の高い SNR を利用した高 voxel 画像を提案検討したところ、動態模擬プラークファントムや臨床例において検出能が向上し、プラークイメージングへの応用が期待できるものだった。

受賞にあたり、研究のご指導いただいた日本医科大学の汲田伸一郎教授、同健診医療センターの石原圭一センター長、金沢大学の小野口昌久教授ならびに共同研究者、ご協力いただいた皆様、そして第25回総会・学術大会の一色高明大会長および選考委員長の橋本順先生には厚くお礼、感謝いたします。

## ■ JSNC Information

## 学会賞技術部門賞応募について

日本心臓核医学会では、2012年より日本心臓核医学会賞に技術部門を創設しました。本賞は、心臓核医学技術に関する領域で興味深い演題発表を行い、今後もこの分野での活躍が期待できる方を顕彰する事を目的としています。今年度も5回目となる「学会賞技術部門」の募集を行い、第26回日本心臓核医学会学術大会（2016年7月15日、16日に三重県津市で開催）において「学会賞技術部門賞」を贈呈いたします。

今年度からは規定を変更し、学術総会における技術系の一般演題を、選考対象に含めることになりました。応募演題の一次審査を行い、優れた研究演題を学会賞技術部門の候補とします。ふるってご応募いただきたく思います。

応募についての詳細は巻末（48ページ）をご参照ください。

（東海大学医学部専門診療学系画像診断学 橋本 順）